

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29077 身近な緑を楽しみましょうー日本と海外の自然遊びを知るー



開催日：平成29年8月27日(日)

実施機関：千葉大学

(実施場所) (園芸学部キャンパス)

実施代表者：古谷勝則

(所属・職名) (大学院園芸学研究科・教授)

受講生：小学生23名

関連URL:

【実施内容】

①「受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意・工夫した点」

- ・本プログラムの中に、「自然体験」、「自然遊び」といった体験型学習を取り入れることで、参加した小学生が「人といきものたちの関係」を能動的に学ぶことができるよう工夫しました。
- ・学内講師だけでなく、外部講師から生き物を使った事例を紹介してもらうことで、より魅力的なプログラムになるよう工夫しました。
- ・日本人学生と、本学に来日している留学生（中国・インドネシア・韓国・アメリカ・ロシア）が協力して、小学生に対して自然を使った遊びを紹介し、小学生との遊びを通して学びを深めました。

②「当日のスケジュール」

- (1) 10:00- 代表者の古谷が、科研費の説明と生物多様性の重要性を紹介しました。《写真-1》
- (2) 10:50- 学生リーダーの寺田の企画で、インストラクター（大学院生）の指導のもとに、子供達は身近な植物を探しました。《写真-2、3》
- (3) 12:00- お昼ご飯
- (4) 13:00- 外部講師の高瀬さんの指導のもとに、自然観察の結果を意見交換しました。《写真-4》



写真-1 科研費の説明



写真-2, 3 自然観察



写真-4 意見交換

1. 千葉大学園芸学部で
自然探検!



2. 探検をたよりに、
自然マップをつくろう。



3. 海外の自然遊びで
遊んでみよう!



(5) 14:00- 海外の遊びをしました。

①韓国の石蹴りをみんなで遊びました。二つのグループに分かれて戦います。《写真-5、6》

②モンゴルのお手玉をみんなで遊びました。お手玉に使っているのは、羊のくるぶしの骨です。《写真-7》

③インドネシアのバナナ遊びを体験しました。バナナの葉を使い、玩具をつくります。これを使用して、二つのグループに分かれ、戦います。Hadi さんは英語で説明・質問をしていたのですが、驚くべきことに小学生は英語で答えていました。《写真-8、9、10》

(6) 15:00- 植物を使ったお茶とおやつを食べました。

(7) 15:20- 観察した自然を各自で用紙にまとめました。

①5グループに分かれ、まとめた結果を発表しました。

《写真-11、12》

②5グループで観察のまとめマップを作りました。

《写真-13、14、15》

(8) 16:00- アンケート記入・未来博士号授与・解散

③「事務局との協力体制」

事務局（研究推進部研究推進課、園芸学部総務係・会計係）とは、書類作成、会計処理、開催日の日曜出勤で協力しました。園芸学部事務担当者は、開催日の日曜に事務室に待機し、お弁当の検収や、非常時の対応の準備をしていました。

④「安全配慮、課題、今後の発展性」

■安全配慮 熱中症対策と安全管理に万全の準備を心掛けました。

(1) 事前に自然体験のフィールドを調査（予行演習）し、危険な地域の調査は避けました。

(2) インドネシアの遊びでカッターを使用するため、サポートの実施協力者（大学院生）が複数名でサポートするようにしました。このため、実施協力者が多数必要となりました。《写真-4》

(3) バナナの加工で指を切る事故が発生しないように、事前に面取りの加工をして、怪我のリスクを軽減しました。

(4) 当日の気温が上昇していたので、経費で購入したお茶を多めに用意して水分補給につとめました。

(5) 実習の安全確保のため自然観察の各班に対し、実施協力者（大学院生）を配置しました。

(6) 気温の上昇するお昼過ぎにはエアコンの効く室内の講義・実験・実習を中心としました。《写真-4～9》

(7) 虫除け等を用意しました。



写真-5、6 韓国の石蹴り



写真-7 モンゴルのお手玉



写真-8、9、10 インドネシア、バナナでつくった玩具



千葉大学園芸学部キャンパス

■課題に対する対応

- ・小学生を対象とした募集の場合、応募者のキャンセル率が高くなります。今回は、出席予定者への連絡を7月末、8月末、企画直前の3回行うことにより、欠席により発生するロス（お弁当や自然素材の購入、協力者の配置）をできるだけ少なくするように努力しました。
- ・最終的には受講生23名と、受講生以外の参加者17名、実施者11名の合計51名でのイベントとなり、大変賑やかでした。

この他に、子供を送り迎えのみする保護者も複数いました。受付が煩雑になりましたが、受講生すべての緊急の連絡先（必ず連絡のつく携帯電話番号の記載と住所の再確認）を受付で求めました。

このことにより、いつでも緊急連絡ができる体制を整えて、事故に備えました。

- ・当日は日本語のできない留学生もいたため、通訳のできる学生を複数名待機させていました。しかし、小学生は英語教育が必修化しており、英語による遊びの説明にも、違和感なく対応しておりました。また、英語の苦手な小学生には、他の小学生が通訳をして、遊びに参加していました。

■今後の発展性

- ・今回のイベントを通して、小学生の適応力の高さに非常に驚きました。プログラムにおける留学生による海外の遊びの説明は、日本語と英語を使って行ったのですが、問題なく進行できました。このことから将来的には、留学生と英語を使いながら自然体験をするイベントなども行いたいと考えています。

また今後も自然遊びを通して、異文化を英語で理解するサイエンスイベントを発展させることができると考えています。



写真-11、12 話し合った内容をまとめて発表しました。

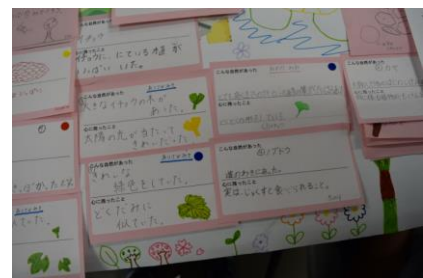


写真-13、14、15、発表したまとめのシートです

【実施協力者】 10名

外部講師 高瀬 唯

学生リーダー 寺田光成・劉 成玉

Tong Ama, Akhmad Arifin Hadi, Minseo Kim, Sofia Penabaz-Wiley, Mariia Ermilova, 朱 倩齡, 孟 蝶

【事務担当者】

研究推進部研究推進課・一般職員 伊藤 栞